

佐用町立学校の在り方について
答申(案)

令和8年〇月

佐用町立学校の在り方検討委員会委員

(案)

令和8年3月 日

佐用町教育委員会
教育長 大森 一繁 様

佐用町立学校の在り方検討委員会
委員長 廣岡 徹

答 申 書

令和7年8月5日付けで諮問のありました「佐用町立学校の在り方」について、下記のとおり答申します。

1 町立学校の適正規模、適正配置に関する基本的な方針について

町立学校の規模・配置の適正化（統廃合）にあたっては、児童生徒数の動向をふまえ、適切な時期に適切な形態で推進する。

- ・ 小学校においては、複式学級を解消できる規模（2学級以上）が求められる。
- ・ 中学校においては、部活動の地域移行をふまえつつ、幅広い教育活動が展開できる規模が求められる。
- ・ 適正化にともない、特色ある佐用町の教育の推進と、新たな学校と地域コミュニティとの関係性を構築することが求められる。

2 前号に掲げる適正化のための具体的な方策について

町立学校の規模・配置の適正化（統廃合）にあたっては、先進事例等を参酌しつつ、適切な時期や形態を検討するとともに、新しい学習環境の充実、整備を図る。

（時期や形態）

- ・ 小学校においては、地域によって児童数の減少に時期的な違いがあるものの、将来的にはさらに児童数の減少が見込まれる。児童数の推移をふまえ段階的に再編を推進するか、さらに将来を想定して同時期に1校に再編するか、の検証が必要である。
- ・ 中学校においては、生徒数の動向と幅広い教育活動の重要性に鑑み、条件が整い次第、1校に再編することが求められる。
- ・ 将来的には、小中学校の9年間を通して、縦と横の多様な人間関係の中で健全な社会性を育むとともに「主体的・対話的で深い学習」を推進する小中一貫校、または義務教育学校への再編を視野に入れることが求められる。
- ・ 県立佐用高等学校との連携においては、地域の教育の活性化の視点からも、佐用町の特色ある佐用町の教育の視点からも、町立学校と連携した教育活動の在り方についての検証が求められる。

(新しい学習環境)

- ・ 新たな学習環境の整備充実を推進する。
- ・ 登下校の安全安心の確保の視点からも、スクールバスを中心に交通手段の確保に努める。
- ・ 通学時間は小中学校ともにおおむね1時間以内を原則とし、交通手段の運用にあたっては、地理的な状況や冬期の気象状況、児童生徒の健康状況等に留意する。
- ・ 再編後の未使用施設について、地域コミュニティにおける今後の活用の在り方を協議、検討する。

3 その他

町立学校の規模・配置の適正化（統廃合）にあたっては、アンケートや住民説明会における意見等についての検証をお願いしたい。

- ・ 再編後、「小規模校のよさ」を視点とする教育活動に留意いただきたい。
- ・ 再編後、通学等に要する経費の負担の軽減についての検討をお願いしたい。
- ・ 学校再編の推進にあたっては、保護者はもとより町民への周知が必要である。広報や説明会等の機会の充実を図っていただきたい。

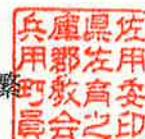
写

佐教企第191号

令和7年8月5日

佐用町立学校の在り方検討委員会
委員長 様

佐用町教育委員会
教育長 大森 一繁



諮 問 書

佐用町立学校の在り方検討委員会設置要綱第2条の規定に基づき、佐用町における児童生徒数の動向を踏まえ、佐用町公共施設等総合管理計画に基づく学校教育施設の見直し及び子どもたちのより良い教育環境に関する検討を行うため、次の事項について諮問する。

1 諮問事項

- (1) 町立学校の適正規模、適正配置に関する基本的な方針について
- (2) 前号に掲げる適正化のための具体的な方策について